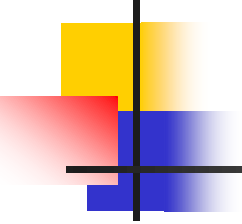


タンザニア眼科医療支援

山崎眼科
山崎 俊

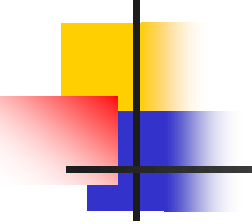




日本眼科国際医療協力会議

Japan International Cooperation in Ophthalmology

- 1) アジア失明予防の会・・・ベトナム
- 2) アジア眼科医療協力会議・・・ネパールなど
- 3) アフリカ眼科医療を支援する会・・・モザンビーク
- 4) キリバス眼科手術プロジェクト・・・キリバス
- 5) タンザニア眼科支援チーム・・・タンザニア
- 6) ファイト・フォー・ヴィジョン・・・カンボジアなど
- 7) **POSA**・・・バングラディシュ
- 8) ミャンマー・アイ・メディカル・・・ミャンマー
- 9) ヒマラヤ眼科医療を支援する会・・・ネパール



タンザニア眼科支援活動

Tanzania Eye Support Program

- **2007年より年1回現地へ1週間程度訪問し、超音波白内障手術の技術指導を中心とした支援活動を行っている。**
- **現地眼科医らと連絡を取りながら、不足している機器、技術、薬剤などを出来る範囲で提供、管理指導を行う。**
- **タンザニア眼科医を日本に招いて研修してもらう。**

これまでの現地での眼科支援活動

Advisory Commission Visits

第1回、2007年7月6日から13日

第2回、2008年8月6日から12日

第3回、2008年9月27日から10月4日

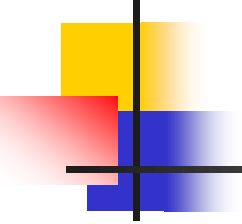
第4回、2009年3月14日から21日

第5回、2009年9月25日から10月3日

第6回、2010年9月18日から24日

第7回、2011年9月17日から22日

第8回、2012年9月15日から22日



失明原因

日本

- 1位、緑内障 (20.7%)
- 2位、糖尿病網膜症 (19.0%)
- 3位、網膜色素変性症 (13.7%)
- 4位、黄斑変性症 (9.1%)
- 5位、高度近視 (7.8%)

世界

- 1位、白内障 (47.8%)
- 2位、緑内障 (12.3%)
- 3位、黄斑変性症 (8.7%)
- 4位、角膜混濁 (5.1%)
- 5位、糖尿病網膜症 (4.8%)

白内障手術の歴史

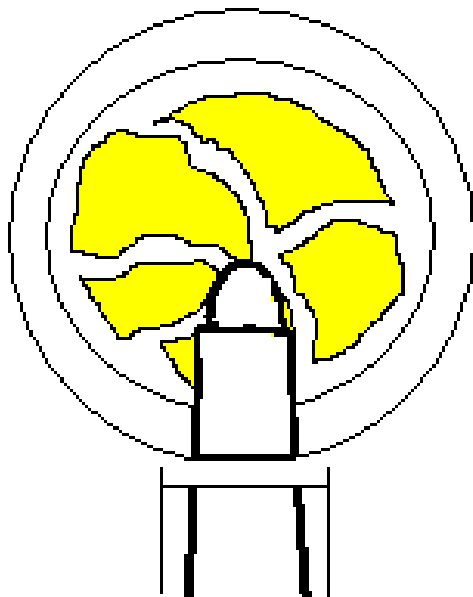
1980年代、超音波白内障手術の普及により、白内障は先進国での主要な失明原因ではなくなった

馬嶋慶直 PEA 法導入	1977	Shearing
	1978	Simcoe
馬嶋慶直 後房レンズの臨床成績	1980	D.Miller Aron - Rosa
	1982	Sinsky - Kratz
	1984	Faust Mazzoco
日本眼内レンズ学会設立 会長 早野三郎	1986	
三宅謙作 国際眼内 レンズ学会会長に就任	1988	Neuhann
		清水

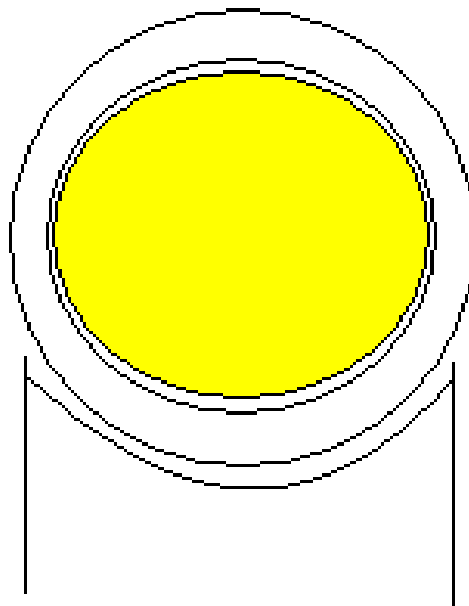


白内障手術

超音波白内障手術(PEA)



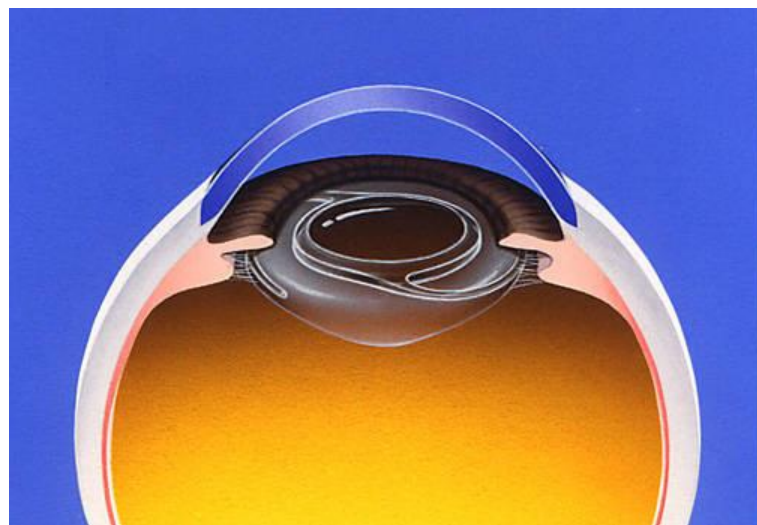
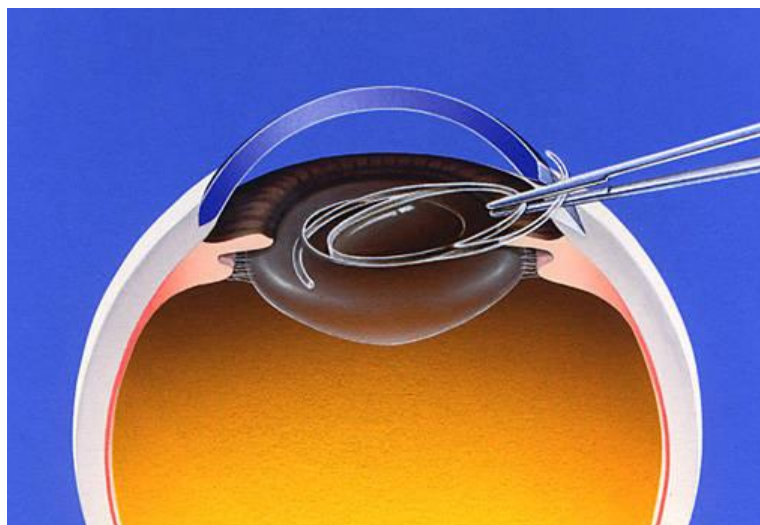
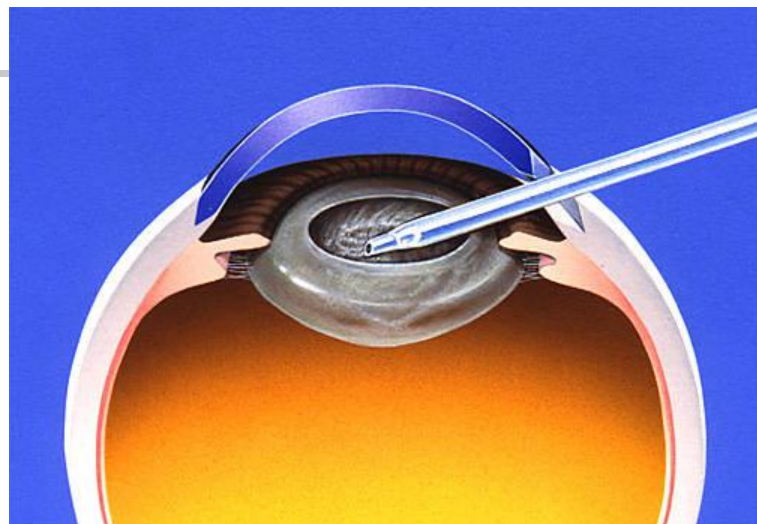
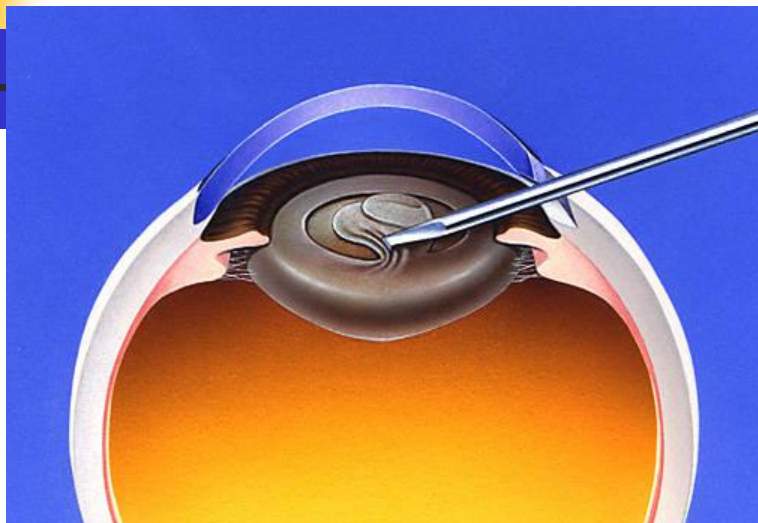
水晶体嚢外摘出術(ECCE)

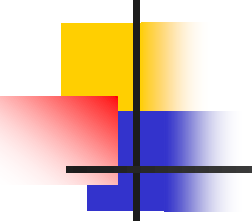


創口の大さき 3mm
手術時間 約15分
主に日帰り手術

10mm以上
30分以上
主に入院手術

超音波白内障手術





ミャンマー眼科支援活動

- 徳島県藤田眼科の藤田善史先生を中心として、1999年より年に2回ミャンマーで超音波白内障手術の指導などを行ってきている活動
- 現地での手術指導、ウェットラボによる指導、学会の開催をおこなっている
- ミャンマー人眼科医に1ヶ月間日本へ来て研修をしてもらう

ミャンマー眼科支援活動



手術指導



ウェットラボ



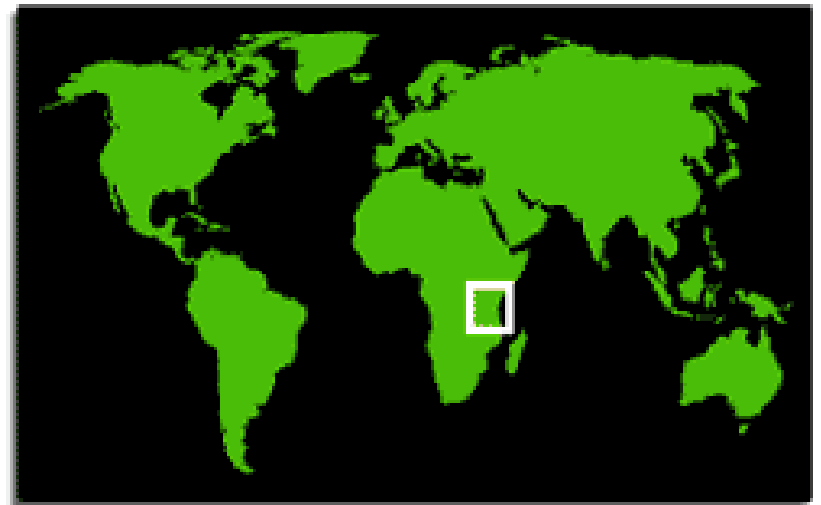
日本での研修



タンザニア連邦共和国

United Republic of Tanzania

- 面積、94万5千 m^2 （日本の約2.5倍）
- 人口、約4500万人（日本の1/2以下）
- 野生動物（キリン、シマウマ、ライオンなど）
- キリマンジャロ山、コーヒーなどが有名



1970年代山崎眼科にて



タンザニア保健省



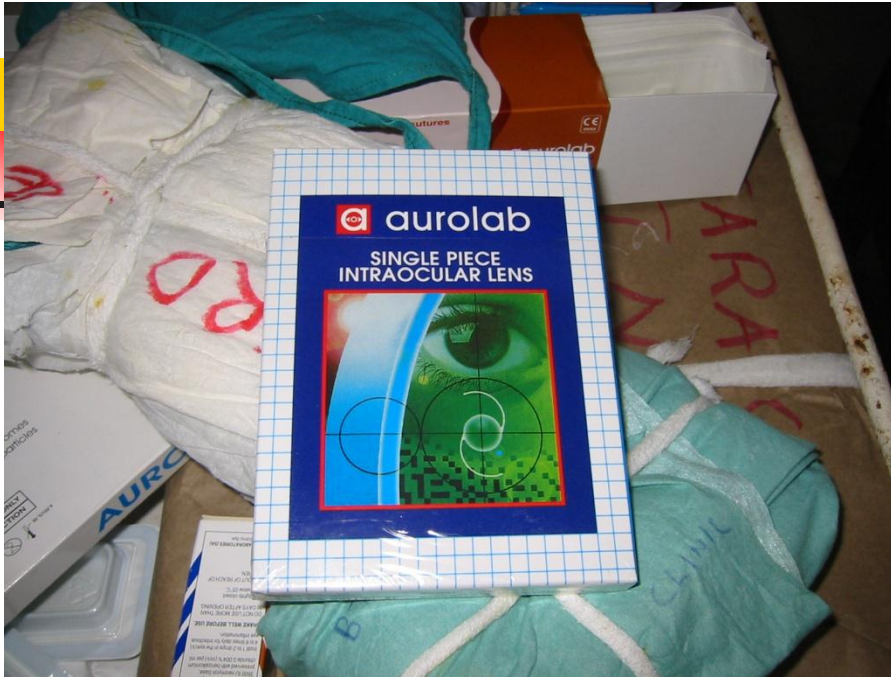
ムンビリ大学病院



ムヒンビリ大学病院



ムンビリ大学病院



CCBRT(私立病院)



タンザニアの医療の現状

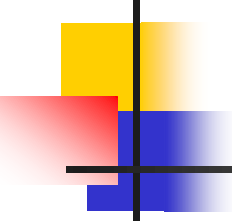
Medical standard of in Tanzania

- 保健省としては乳幼児、妊産婦の死亡、マラリア、エイズ、結核など生命に直接かかわる疾患の対策が重要→眼科医療まで手が回らないのが現状
- 世界第5位の医師不足、医師一人あたりの人口は**42058人**（医師不足第1位はリベリア、**116667人**、日本は医師一人当たり**489人**）
- （ブリタニカ国際年鑑**2006**より）

タンザニアの眼科医療の現状

Medical standard of ophthalmology in Tanzania

- 眼科医はわずか34人！（1人で100万人以上診察!?)
- 失明原因の第1位は白内障。ほとんどが手術で治療可能
- 最大都市のダルエスサラームで白内障囊外摘出術が行われているが、手術を受けられるのはごく一部の患者に過ぎない。



タンザニア眼科支援活動への協力

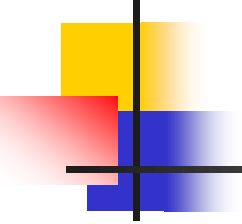
- **2005年に開催された愛知万博でフレンドシップ自治体を提携した小牧市の小牧ライオンズクラブより創立45周年記念事業として数百万円の資金提供をいただき、タンザニアで不足している眼科機器を購入して、現地へ送った。**

小牧ライオンズクラブの支援



醫療機器寄贈式典





タンザニア眼科支援活動の内容

Tanzania Eye Support Program

- 1、超音波白内障手術をライブで行い、手術の良さを認識してもらう
- 2、タンザニア眼科医の横について手術指導を行う
- 3、机太郎（白内障手術練習キット）を使ったウェットラボを行う
- 4、タンザニア眼科医が必要とする器具、薬剤を寄贈する
- 5、講義、勉強会などを開催し、タンザニア眼科医のモチベーションを高める
- 6、タンザニア眼科医を、日本で受け入れ、研修をしてもらう

1,2,手術の直接指導



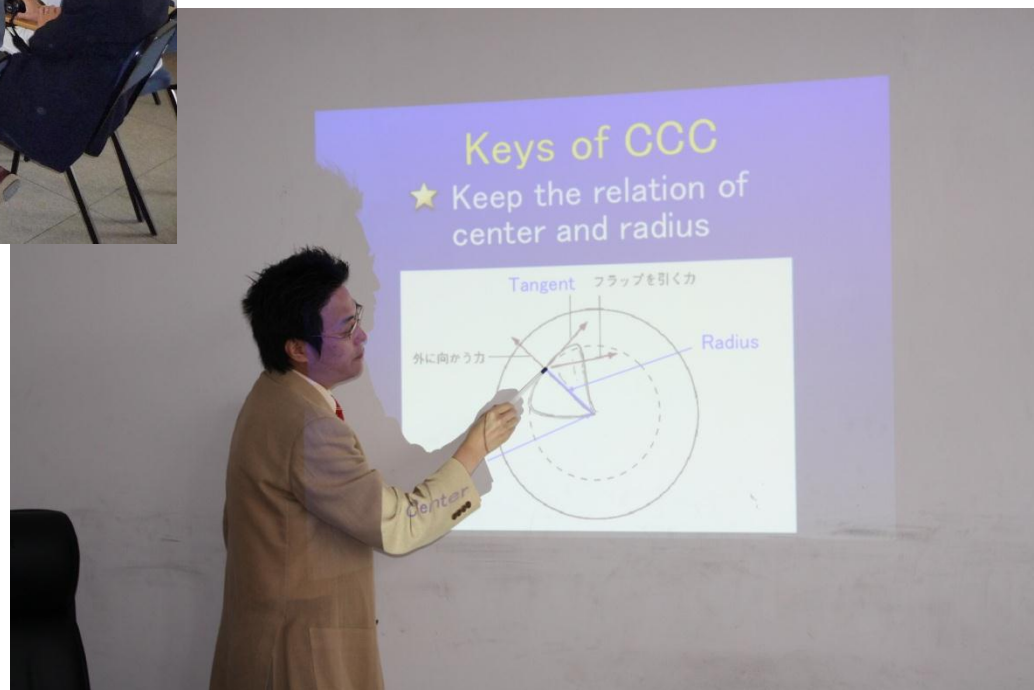
3、机太郎による手術指導



4. タンザニア眼科医が必要とする器具、 薬剤を寄贈する



5,講演による技術指導



術前、術後診察



眼科医らとの交流



日本大使館などの協力



タンザニアの市場



タンザニアの自然



タンザニアの自然



6,タンザニア眼科医の日本研修1



6,タンザニア眼科医の日本研修2



6,タンザニア眼科医の日本研修3



タンザニアの眼科医が研修
現地の治療支援、NPOが招く

アフリカのタンザニアで眼科治療を支援している日本のNPO法人が、現地の眼科医を初めて招き、国内各地で約1カ月の研修をしている。4日は小牧市内で、2008年に超音波白内障治療機器を贈った小牧ライオンズクラブに治療の成果を報告した。

来日したのはダルエスサラームの国立ムヒンビリ大学病院の眼科代表アンナ・サニワさん(45)。白内障を治療した目の個数は、支援によって年間300から500に増加。「手術の質も向上し、眼科に興味を持つ学生も増えた」という。

NPO法人代表の山崎俊さん(44)は春日井市の眼科医。医師と看護師、技術者のチームが07年から毎年現地を訪ね、治療の指導や機器のメンテナンスをしている。タンザニアでは失明する人の半数が白内障によるという。

東日本大震災被災地視察



支援活動の成果



- 超音波白内障手術の導入と普及
(2007年=3%→2010年=15%)
- 白内障手術の増加、治療の効率化
(2007年=約300件→2010年=約500件)
- 白内障による失明の減少

問題点



1)活動資金の問題

2)人材の問題

A)医師だけでなく、パラメディカルの協力がなければ支援活動は成り立たない

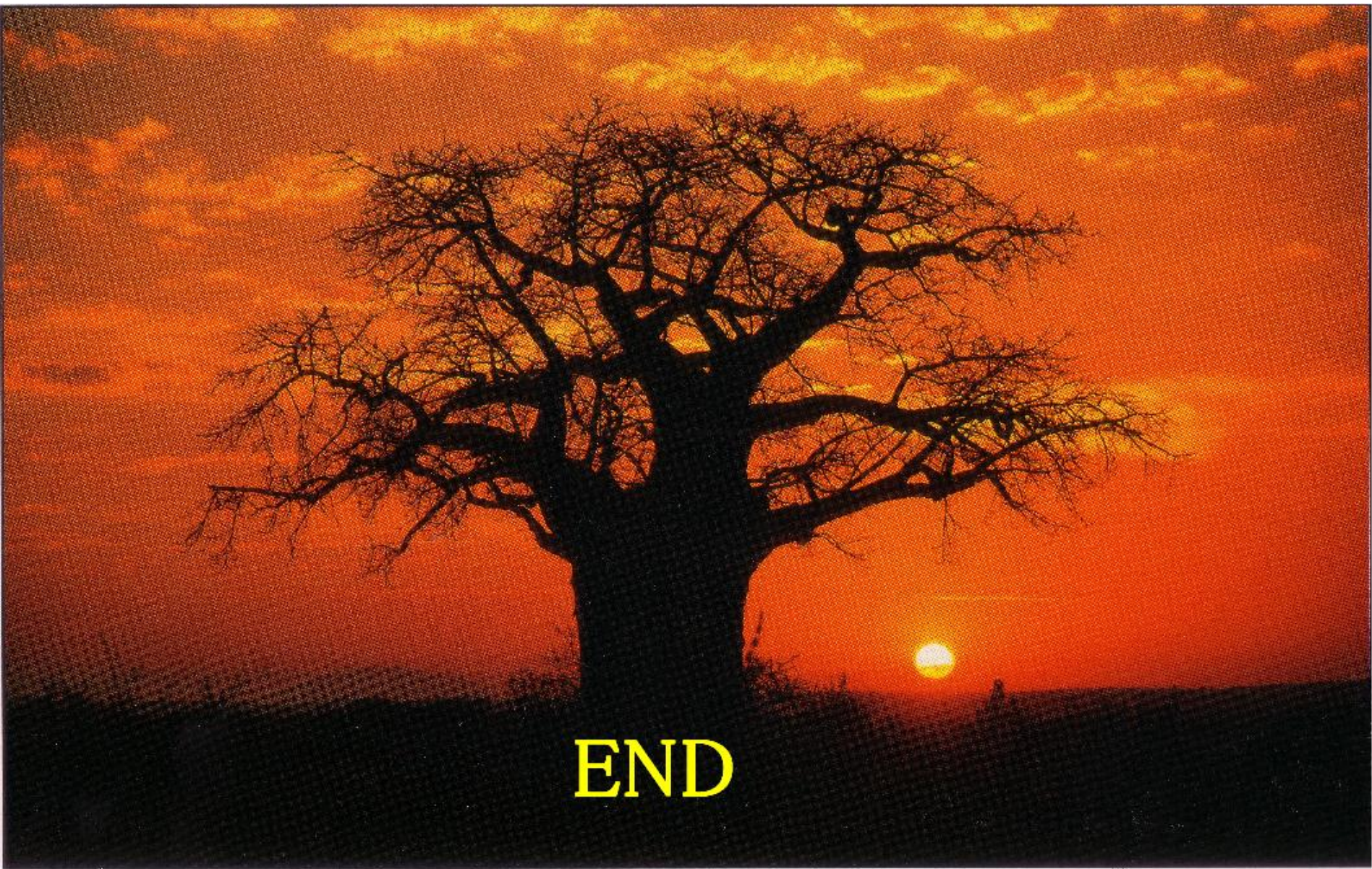
B)海外支援活動への参加に対して職場の理解が得られるか？

3)相互理解の問題(文化、習慣の違いを乗り越えて共通の目標を目指す)

まとめ



- タンザニアの眼科医療の現状と支援活動について報告した。
- 今後も継続して適切な手術指導、眼科医療機器、薬剤の寄付、日本での研修などを進めて行きたいと考えている。
- 国などの協力が得られれば、より安定し、充実した活動を進めることが出来る。
- 参加希望者はご連絡ください。



END